

7月例会

新・高度情報化推進のための京都市行動計画

～e-京都21～について

講師：豊田 博一氏

(京都市総合企画局 情報化推進室 情報政策課 情報企画担当課長)

IT化にともなうデジタルネットワークの進展によって、社会・経済を取り巻く情勢は大きく変わろうとしています。IT革命によって、日常生活での利便性は急速に高まっており、これに比例して行政に対するニーズはますます高度化・多様化しつつあります。今回は、第1回KVBC例会として、京都市が市民サービスの向上と京都のさらなる発展のために策定した「新・高度情報化推進のための京都市行動計画～e-京都21～」の概要と基本方針を豊田氏からお伺いし、その後、IT化による京都活性化の可能性について意見交換が行われました。



講演の様子

電子市役所化にともなう3つの視点

「新・高度情報化推進のための京都市行動計画～e-京都21～」とは、京都経済が地盤沈下する中で、みなさんの発想やサポートを得ながら、京都市域でどのようなことをすれば都市再生を果たすことができるのか、その具体的な指針を示したものです。京都市の基本計画の柱である「安らぎのある暮らし」「華やきのあるまち」「市民との厚い信頼関係の構築」を高度情報化の側面から推進していくというのが1つのねらいですが、サービスの基本的な考え方には3つの視点があります。

まず1つ目は、「人だけにしかできない、または人が行うことに価値があるサービス」を拡充するということ。ITではできないような、市民の立場にたった思いやり、触れあいを重視したサービスを今後もさらに継続していきたいと考えています。2つ目は、「人だけでも行えるが、ITを活用することでより効果的に行えるサービス」。ITの利用によって、行政業務やサービスの効率化・コストダウンが図れ、行政改革を一層推進することが期待できます。3つ目は、「ITを利用することによって、今までできなかったことが可能になるサービス」。たとえば、1カ所で複数の行政サービスを受けることができるワンストップサービスや、24時間・365日行政サービスが受けられるノンストップサービスなど、これまで人だけではできなかったサービスの実現です。

特に3つ目のサービスについては、今や地域インフラとして欠かせないコンビニなどの例でも分かるように、民間サービスのほうがはるかに先行しています。私たち職員一人ひとりが、行政は基盤整備が遅れているという意識を持ちながら、市民のみなさんにとって、より利便性の高いサービスを行う電子市役所の確立に努めていきたいと考えています。

IT活用で行政業務を情報化

電子市役所の足がかりの第一歩として、私たちはまず行政業務の情報化に取り組むことにしています。たとえば、これまで紙で処理してきたものを電子処理に切り替える、市役所内部のイントラネット環境の整備・活用に努めるなど、最新のITを導入するとともに、すべての行政業務を市政改革の視点から抜本的に見直していきたいと考えています。現在、その取り組みの一環として、先導的にリーディングプロジェクト（人事給与システム、財務会計システム、文書管理システム）を進めています。今後は政策企画、事業推進などの各段階において、あらゆる行政情報が高度な情報共有のもとで有効に活用できる、ナレッジマネジメント環境を構築していくつもりです。

もう1つ、電子化を進めるための重要なアカウントビリティ（説明責任）として、行政情報の公開があります。全国的な情報公開の流れの中で、もはや避けて通れない問題となっていますが、京都市においても、開かれた市政を築いていくための重要な要素と位置づけ、最重要課題として取り組んでいきます。今まで、紙ベースで情報提供してきた、予算・決算に関する情報や市民税などの情報をweb上で提供することによって、市民と行政との情報の双方向的な交流・交換が円滑に行えるような仕組みをつくれぬか。その手始めとして、webの体裁などにこだわらず、掲載する情報量を増やしていきたいと思っています。

将来的には、行政情報の提供だけにとどまらず、電子入札や電子申請・届出、電子納税なども視野に入れたサービスを実現したいですね。さまざまなセキュリティの問題はありますが、超高速インターネット網の整備や電子政府の実現などを盛り込んだ政府主導の「e-Japan戦略」の基盤整備状況を考慮しながら、最終的にはインターネット上でのワンストップ・マルチサービスを目指していくつもりです。

セキュリティポリシーの確立に万全を

高度情報化推進体制を確立するためには、人・組織・制度の早急な整備が必要不可欠です。市役所には、企業や市民のみなさんの個人情報がたくさん集積されており、コンピュータウイルスやハッカーなどによるデータの改ざんや情報の盗視聴などは特に許されません。

本行動計画の1つの目玉として、京都市ではCIO（高度情報化推進統括責任者）とCISO（情報セキュリティ統括責任者）を設置しました。CIOは、高度情報化に関する企画・方針の検討やセキュリティ確保の推進・統括を行う機関。一方、CISOは、京都市の電子情報や情報システムのセキュリティ確保について、CIOに対して勧告・監視などを行います。いずれの機関も、市役所の枠組みを超え、一定の力量と見識を持った局長クラスを實質的な最高責任者として任命し、情報化推進体制の強化を図っています。

また、高度情報化の取り組みにあたっては、職員のパソコン習熟能力だけでなく、情報そのものの管理能力やセキュリティに対する意識改革が必要であるという見地から、職員の倫理・服務規定をチェックする機関をあらためて設置したほか、「情報リテラシー向上プラン（仮称）」や「情報セキュリティガイドプラン」などを策定して、個々の職員が自らのリテラシーを高める取り組みを進めています。

そのほか、業務やサービスの電子化・オンライン化にともなう市役所内部の例規を見直すために、オール市役所的なプロジェクトを早急に立ち上げるつもりです。このように、高度情報化推進に対するハード・ソフト面の整備を同時に進めることによって、セキュリティ対策には万全の対策を注いでいきたいと考えています。

だれもがITの成果を享受できるまちづくり

ITの進歩は市民生活や経済活動を大きく変えようとしています。その一方で、パソコンやインターネットを使えるか否かによって、デジタルデバイド（情報格差）が生まれつつあります。デジタルデバイドは、行政サービスに関する情報が市民に伝わらないなどの、サービスの利用機会の格差につながるほか、社会的・経済的な格差を生む恐れもあります。京都市では、(1)市民へのIT教育の実施、(2)ITを活用して障害者や高齢者が豊かに暮らせるまちづくり（たとえば、GPSを活用した緊急通報システムの開発など）を基本構想に掲げています。すでに、国の補助により、年間48,000人を超える市民を対象としたIT講習会を実施していますが、すべての市民や企業がITの成果を享受できるまちづくりを実現するために、行政は、まず取り組むべき対象や事業を絞り、その部分を重点的に展開していくことが大切です。また、中小企業に対しても、企業経営者へのIT講習会を実施するほか、「IT設備投資等に対する支援」や「高度情報化計画策定等に対する支援」などを通して、中小企業の潜在的な競争力を高めていきたいと考えています。

次に、ITの活用による新しい京都づくりについてですが、京都がこれまでに培ってきた産業・文化・歴史などの資産バリューを相互に関連づけながら、まちの活性化につなげていきたいと考えています。たとえば、モバイルやPDF、PDAなどの技術を使って、次世代型観光案内システムを構築できないか。また、それぞれの企業情報を相互に発信することで、企業の活性化や新たな企業誘致につなげられないか。今まで独立して機能していた観光分野、産業分野、文化分野をITによって連携させ、相乗的に力を発揮できるバリューチェーン（価値の連鎖）を構築することが有効だと考えています。

民間活力を誘導する情報基盤整備

本行動計画の最後となる重要な柱は、情報流通基盤の整備です。簡単に言うと、民間活力を京都に誘導するためには、どのような情報基盤整備を行えばいいかということです。企業が望んでいる情報基盤は、安全・安価・高速の3つです。京都市では、情報通信ネットワーク敷設工事等に関する届け出・申請等の手続きを一括して受け付け処理する機関、「京都ITコミッション（仮称）」の設立を目標に掲げ、低料金で超高速大容量のインターネット利用環境を実現するためのフィルムコミッション*的な仕掛けづくりに着手しています。また、地域のインターネット利用向上を目指して、現在は東京に集中している「地域IX（インターネット・エクスチェンジ）」「インターネットデータセンター」などの機能を有する「京都ONE構想（仮称）」も視野に入れていきます。日本全国・世界とのインターネット利用環境の向上を図ることによって、京都だけにとどまらないビジネス展開が可能となり、大きな経済波及効果が期待できると考えています。

さて、本行動計画は必ずしも行動計画的な要素ばかりではなく、基本方針的な要素を併せ持っている面は否めません。現時点での施策展開は、行政内部の仕事の効率化・適正化に重点が置かれているのも事実です。特にITの世界は進歩のスピードが速く、今考えている計画が3年後、5年後には陳腐化してしまうこともあります。今後は、その他の計画部分についても具体的に実現していけるように、行政としての力を発揮していきたいと考えています。

*フィルムコミッション：映画のロケで、撮影のための申請や調整、手配などを行うこと。